

Libra | on

vol. 41

りぶらいおん

<http://www.libra-sc.jp>

特集：りぶら総合館長 石川真澄氏インタビュー
岡崎市立図書館 市制施行100周年を迎えて

5月14日(土)
総会&りぶらCafe
を開催しました!!

今年度の運営委員一同です



- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.36
- 図書館を見に行こう!!
- 総会&りぶらCafe 報告

りぶらサポータークラブは、『新世紀岡崎チャレンジ100』の事業として、『困ったときには図書館へ』の連続講座を開催しています。P.8をご覧ください。


岡崎市図書館交流プラザ

図書館交流プラザ(愛称:Libra)は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ(LSC)は、Libraの施設活用をサポートする活動をしています。





インタビュー

りぶら総合館長 石川眞澄氏

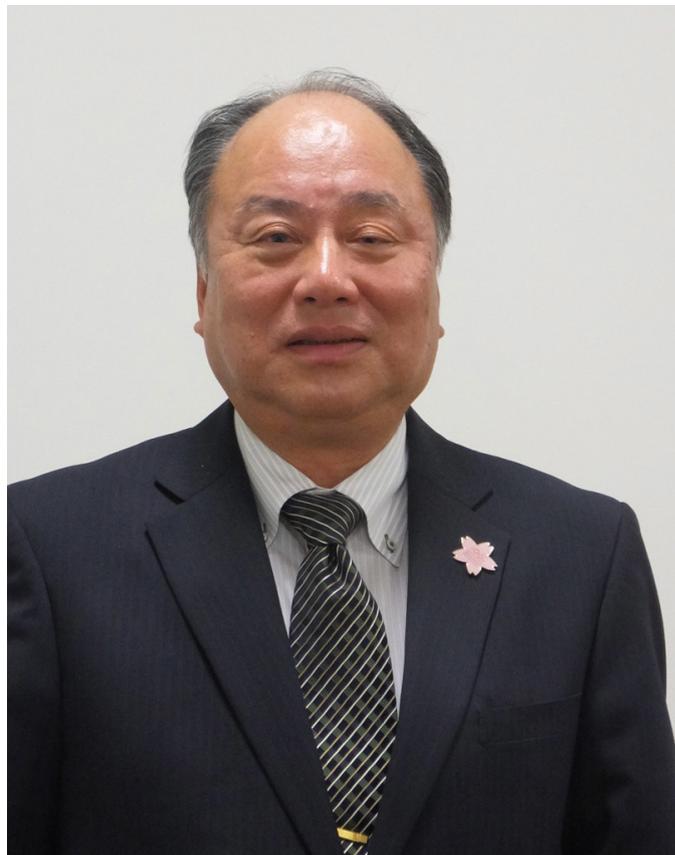
この4月から、岡崎市文化芸術部長・りぶら総合館長に就任された石川眞澄氏にお話を伺いました。たいへん気さくなお話しぶりで、緊張するインタビューを楽しませていただきました。(戸松)

使われなければただの箱

りぶらの前は、福祉部に13年おりました。その前は、美術博物館に4年おりました。平成8年に美博がオープンした翌年から管理班にはいりました。私の文化意識はそこで培われたかもしれません。琳派の屏風絵には大変な衝撃を受け、今でも休日は美術館に行くこともあります。先日も俵屋宗達の屏風絵を見るために、日帰りで2日間京都に通いました。

「文化」とは、「文字が化ける」と書きますね。「文字」というのは、「記録」です。「記録」とは「人の営み」の記録です。人の営みがあるからこそ文化が生まれるのですね。図書館に収蔵されている図書は、まさしく「文化」です。また、「文字」のほかにも、映像・音楽・美術などの「記録」もあり、すべて「文化」ですね。その総合的な社会文化の施設として「りぶら」があることは、本当に誇らしいことです。

でも、そこにあるだけでは、ただの「もの」ですし、「りぶら」も使われなければ、ただの「はこ」です。保存だけでは意味がなく、使って人が動くことで文化が熟成していくのです。「家康行列」や「花火大会」のように、変革と定着を繰り返し、伝統にすることで文化として定着していきます。「りぶら」もそのような施設になることを望んでいます。「りぶら」を利用する人が「文化」を創っていくということです。今年は市制100周年を迎えますが、年を重ねることがいかに大切かを感じています。今まで積み重ねたものを、どう残し、どう伝えていくのか。その手段を考えていくことも必要です。



生涯付き合える一番身近な施設

図書館は社会教育施設の一つです。「教育」というと、「教える・育む」という、上からの目線を感じますが、「社会教育」は、地域コミュニティを中心にした、生活の営みにつながる「生涯学習の場」と捉えると、図書館はまさに多世代にわたる市民が利用できる、生涯付き合える一番身近な施設です。

「りぶら」は、その「図書館」を中心に、映画館の空気やジャズ喫茶の空気、昭和の空気まで再現し体験できる場になっています。図書館の資料や各種収蔵物、そしてりぶらという機能を活用して欲しい。「教育」の線を引きかず、人の楽しい営みとして、多くの方にたくさんの「知ることの喜び」を分かち合っていていただくとともに、それを体現する場、発表する場、参加していただく場としてご活用いただきながら、多くの方にりぶらの魅力を伝えていけたらと思っています。



岡崎市立図書館 市制施行100周年を迎えて

岡崎市立図書館は、明治45年7月21日「岡崎町立通俗図書館」として開館、大正5年7月1日市制施行に伴い、「岡崎市立図書館」と改称、その後の変遷を経て、平成20年11月1日に図書館交流プラザに移転し、100周年を迎えます。

中央図書館では、図書館、岡崎むかし館、内田修ジャズコレクション展示室で、今年度、次のとおり取り組んでいきます。

企画展示 「岡崎百年のあゆみ」

展示期間：平成28年5月1日（日）～6月30日（木）

場所：1階レファレンスライブラリー

入口左すぐガラスケース、岡崎学展示コーナー

1Fレファレンスライブラリーでは、2016年7月に岡崎市が市制施行100周年を迎えることを記念して、ガラスケースと岡崎学展示コーナーで、100年の歩みを振り返る展示を行います。

普段は書庫に保管してある、岡崎市に関係する資料を展示します。一部貸出することのできる資料もございます。

ぜひお越しください！



内田修ジャズコレクション展示室リニューアル

内田修ジャズコレクション展示室は、昨年一部リニューアルしました。イベントしやすいレイアウトに変わり、展示替えのペースを上げて、積極的な資料提供に努めています。市制100周年を迎える今年は、ミュージシャンのポートレートを中心とした写真展開催を秋に向けて準備しています。またジャズコレクションの秘蔵音源を活用したCDの第5弾も、これまでの総括的な内容とすべく、同時期の完成を目指しています。

内田修ジャズコレクションは、純粋な図書館資料とはタイプも扱いも異なりますが、現在岡崎市が進めている「ジャズの街岡崎」を支える資料群です。また国内外を見渡しても、これほどの資料の質や集積ぶりは、ちょっと簡単には見当たらないのではないかと思います。これを一人の岡崎市民が成し遂げたこと、そしてりぶらに保存



されていることを積極的に情報発信し続け、街のにぎわいにつなげていきたいです。

岡崎むかし館「未来に残すみんなの岡崎「百」選」

「岡崎むかし館」では、ふるさと岡崎の移り変わりを未来に残そうと、市制施行 100 年を向けた今年、市民の皆さんに、ご家庭でお持ちの写真の提供をよびかけました。

地域の伝統行事・農耕作業・風物や景色など、何気ないスナップ写真や風景写真の中には、今はもう見ることのできないモノ・コトが記録されています。それらを保存し、多くの市民の皆さんに提供していきたいと考え、《未来に残すみんなの岡崎「百」選》と題した事業を行います。

まずは5月27日（金）から6月6日（月）まで、応募いただいた中から100枚余りの写真をりぶらのギャラリーで展示します。写真は、むかし館やレファレンスライブラリー、総合案内に設置してある「りぶら映像アーカイブス」にも活用して、今後いつでも気軽に見てもらえるようにしていきます。

さらに、11月頃の完成を目指して、新たな展示造作物をむかし館に設置します。クイズの要素を取り入れ、家族で楽しくむかしの写真や道具に接してもらえることを目指しています。

りぶらは、かつての岡崎城外堀に位置しています。ここには、岡崎で最初の学校といってもよい「允文館・允武館」がありました。そうした歴史的に意味のある場所で、図書館の地域資料とともに、ふるさと岡崎の歴史や伝統を紹介しているのが岡崎むかし館です。

主として取り扱っている歴史民俗資料は、図書館の地域資料と同じく割と地味なものが多く、それ自体で人目を惹こうとしても、なかなか難しいものがあります。けれども誰かが保存しなければ、あっというまに失われてしまいやすいものでもあります。そして岡崎には今のところ歴史博物館のような、その地域のさまざまな資料を一体的・専門的に常設展示する施設がありません。限られたエリアで、地域に残された資料を記録・保存するという大事な役割を担っています。

これからも市民の皆さんから貴重な情報や資料をいただきながら、図書館の機能の中でも最も身近で且つ重要な「資料提供」を、積極的に進めてまいります。

りぶら中央図書館情報

内田修ジャズコレクション CD 第4弾好評発売中です !!

今年4月から販売を開始したCD「内田修ジャズコレクション 人物 VOL. 2 宮沢昭」が好評発売中です。第4弾となる今作もジャズコレクションの貴重な音源の中から、ジャズ・ピアニストの佐藤允彦氏による監修の下、厳選した楽曲を活用して制作されました。

今作「人物VOL.2」は内田修氏が才能と実力を認めてきたアーティストで、日本を代表するジャズサックス奏者宮沢昭氏の楽曲を収録しました。収録曲は過去の「ヤマハ・ジャズ・クラブ」での名演や、「マイ・ピッコロ」のライブ・レコーディング前夜（1981年3月20日）に当時内田病院内にあった通称「ドクターズ・スタジオ」で行われた貴重なリハーサル音源も収録されています。また、ジャズジャーナリスト小川隆夫氏によるライナーノーツ、関係者へのインタビュー等、充実の内容となっています。

このCDは現在、内田修ジャズコレクション展示室にて販売していますが、事前振込または現金書留による遠方からの購入も可能です。価格は1枚2,000円で1,000枚の限定販売（なくなり次第終了）。ぜひ手にとっていただきたい資料です。

担当：中央図書館 企画班（電話 23 - 3167）



おはなし会スタンプラリー開催中です！

額田図書館や各地域図書室で、「おはなし会」を毎月開催していることをご存知ですか？

4月から、これらの「おはなし会」で「おはなし会スタンプラリー」という企画を始めました。参加方法はとても簡単！各「おはなし会」で配布しているスタンプラリーの台紙を持って「おはなし会」に参加し、スタンプを8つ集めるだけです。台紙のスタンプが8つすべてたまると、スタッフ



から景品として素敵なプレゼントがもらえます。お子様なら誰でも参加できますので、是非お近くのおはなし会にお立ち寄りください。

参加館	開催日	開催時間
額田図書館	第2土曜日 第3木曜日	10時30分
南部市民センター	毎週日曜日 毎週火曜日	15時00分 16時00分
大平市民センター	第2、4水曜日	10時30分
東部市民センター	第1、3金曜日	10時30分
岩津市民センター	第3火曜日 第4土曜日	10時30分
矢作市民センター	第1、3土曜日 第2金曜日	11時00分 10時30分
六ツ美市民センター	第1土曜日	11時00分
げんき館	第4金曜日	10時30分

※ 中央図書館の「おはなし会」は対象外です。

レファレンス事例集

梅雨に入ると傘の出番が多くなりますね。普段何気なく使っている「傘」ですが、その傘の各部分の名称なんて御存じでしたか？

今回は、身近なのに意外と知らない「モノ」の名前が分かる事例をご紹介します。



質問	傘の先端を集めておく部分の名称を知りたい。
回答	【資料1】p3に洋傘・和傘の各部名称あり。先端部分の名称は、洋傘「上ろくろ」(ノッチ)、和傘「頭(天)ろくろ」とあり。【資料2】p8に洋傘各部の名称あり。「ノッチ(上ろくろ)」とあり。【資料3】p48-49にかさのパーツの名称が詳しく載っている。【資料4】p50にも傘の各部の名称あり。【資料5】p27-28に「傘の中心部分のアレ」という問題があり、答えの説明として、「傘の骨をまとめているパーツをろくろといいます。外側の長い親骨を束ねている上ろくろは傘のてっぺんに、内側の短い小骨をまとめている下ろくろは柄についています。・・・ろくろ式の和傘を広げると、柄の部分が長く伸びるようにみえることから、妖怪・ろくろ首が語源ではないかという説があります。」との説明あり。
キーワード	「傘」「日用品」
参考資料	【資料1】『傘 - 和傘・パラソル・アンブレラ -』INAX 出版 / 1995年 / 383カ 【資料2】『アンブレラ - 傘の文化史 -』 T.S. クローフォード / 著 / 八坂書房 / 2002年 / 383.4ア 【資料3】『ビジュアルディクショナリー 1 日用品』同朋舎出版 / 1993年 / 031ヒ1 【資料4】『知ってるようで知らないもの名前』北橋隆史 / 著 / 幻冬舎 / 2004年 / 049シ 【資料5】『アレの名前大百科』みうらじゅん / 監修 / PHP 研究所 / 2010年 / 031.8ア



私の一冊 vol.36

「黒部の山賊 アルプスの怪」

伊藤正一：著 山と溪谷社

過去に何度もこの原稿の依頼を受け、何かと理由をつけてパスしていましたが、ついに観念しました。本当に本を読むことは少なく、「りぶら」勤務にも関わらず、借りる本といたら、趣味の登山やトレイルランニング関連の本ばかり……（笑）。

そんな僕が選んだおすすめの一冊は、「黒部の山賊」という本です。

僕の唯一の趣味は、山登りです。皆でワイワイ登ることもあれば、一人でテントを持って登ることもあります。「りぶら」の勤務は不規則なので、友達と一緒に登る機会も少なくなり、最近はおっぱら一人で登っています。

この本と出会ったのは去年の夏。3泊4日のテント泊ソロ縦走中でした。一人で山に登るときは、目的地到着後をどのように時間を過ごすのが大切です。天気がよければ外で雄大な山の風景を眺めつつ、ただコーヒーを沸かしてボーっとした時間を過ごすことが最高の贅沢です。でも、雨が降るとテントの中で過ごすしかありません。人見知りの僕には、他の登山者と交流するというのはレベルが高いのです（笑）。

山の天気は変わりやすいと言いますが、雨男の僕にとっては、4日間も山にいと、ずっと晴れていることは奇跡に近いのです。去年の天気は最悪で、2日目以降は雨続き。到着後にテントでやることがなく困っていました。そんな中、ふらりと立ち寄った三俣山荘という山小屋で出会ったのがこの本です。以前から、図書館にあるのは知っていて興味を持っていましたので、荷物が重くなることを覚悟の上、この本を購入しました。

この本の舞台は黒部川の源流部です。源流部とは、北アルプスの最奥地にそびえる薬師岳、黒部五郎岳、三俣蓮華岳、水晶岳に囲まれた地帯のことで、日本最後の秘境として有名な雲ノ平がある付近です。

筆者の伊藤正一氏は、ひょんなことから三俣山荘を購入することになったのですが、そこには山賊のうわさがあった、うかつには近寄れない場所でした。戦後間もない頃に北アルプス最奥の地に山小屋を買い、そこに住み着いていた「山賊」とともに雲ノ平を拓き、登山者を見守ってきた伊藤正一氏。狩りの話から、ヘリコプターの無い時代の山小屋建設の苦労、遭難者の救助。さらに、佐々成政の埋蔵金伝説をめぐる話や、カップヤ化け狸の話まで出てきます。

明治から戦後間もない時期までは、こうした世界が山の中に広がっていたらと思うさせる一冊です。人間の領域が今よりも遥かに小さく、現在とは装備も登山道等の状況も全く異なり、多くの遭難者がでており、非科学的なものも信じられていた時代です。白骨・カップヤ化け狸といった妖怪の類の話となった舞台であるこの地で、夜、雨の降る中、一人テントで読むのは楽しいような怖いような……。この原稿を書くにあたって、もう一度読み返しましたが、また山登りに行きたくなりました。

登山に興味のある人もない人も、間違いなく楽しんで読める一冊ですので、是非皆さんに読んでいただければ幸いです。ただし、山に持っていく場合は、図書館で借りるのではなく、ご自分で購入してください（笑）。



細野 雅人
(ほその まさと)

りぶら勤務5年目。生涯学習と市民活動の活性化に従事。休日は趣味の山登りとトレイルラングを楽しんでいます。夢は日本百名山制覇とエベレストを見に行くこと。



標高 2,500 m 付近で槍ヶ岳をバックにジャンプする僕

読書マラソン チャレンジ 100冊 のご案内

100冊の読書記録が書き込めるシート（りぶらサポータークラブ作成）を、7月1日より貸出カウンターで配付します。個人の読書記録としてご利用下さい。



総会&りぶら Cafe 開催報告

5月14日の午後1:30から、平成28年度の総会がりぶらホールにおいて開催され、全ての議案が承認されました。今年度は「布絵本作製」が予算組みされ、市政施行100周年事業である『困ったときには図書館へ』の連続講座と、初めてのイベントとなる『ハロウィンイベント』もあり、これまでにない事業規模になっています。

りぶらのサポーターとして、一緒に活動できる仲間と賛助を募集しています。また、参加者として「一緒にりぶらに行こまい!!」と声をかけてください！詳細は、随時ホームページなどでお知らせします。また、月・火・木・金の午後は、活動コー

ナーに事務局員がおりますので、気軽にお声がけください。

総会後に行われた「りぶら Cafe」では、3つの島でそれぞれに話が盛り上がりしました。

一つの島では、りぶらにまつわる雑学あれこれ。例えば岡崎公園は、「りぶら」にとって「庭」なんだっていうこと、知っていましたか？

もう一つの島では、図書館の職員を交えて、図書館にまつわる気になるあれこれを話し合いました。

三つ目の島では、りぶら講座における新たな施設の活用方法などが模索でき、それぞれに楽しい交流ができました。この交流を糧に、運営委員一同、事業を進めて参ります。



困ったときには図書館へ

全日程午後1時半から4時半

2	7/9 土	仕事 りぶらホール と図書館		秋元祥治 × 岡本真	岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz
3	8/18 木	子育て りぶらホール と図書館		飛鷹正純 × 神代浩	三河子育てナビネット
4	10/2 日	市民活動 3F会議室 と図書館		三矢勝司 × 岡本真	岡崎まち育てセンター・リた
5	12/4 日	病気 りぶらホール と図書館		金田聖可根 × 神代浩	ホスピス研究会OKAZAKI がん患者会とがん患者サロン運営
6	2/19 日	図書館の 未来 3F会議室		神代浩 × 岡本真 × 水越克彦	岡崎市立中央図書館

Libra | on vol.41 2016/6/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行：りぶらサポータークラブ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 info@libra-sc.jp http://www.libra-sc.jp
携帯電話：070-5252-7263 / 070-5333-1842 月・火・木・金：13:30～16:30

そうだ！りぶらをサポートしよう！
(1) 活動サポーター（登録のみ）
(2) 賛助サポーター（年会費）2,000円
随時、ご寄付も受け付けています。